

## ～進化と挑戦～ 繋ぎ行く技術のバトン

岐阜市折立にある大東化工株式会社。創業八十七年を迎える企業です。紙やフィルムにコーティングなどの化工を施して、新たな機能を持った特殊紙や機能性フィルムを製造しています。インクジェットプリンターやコピー機などで簡単にプリントでき、水に丈夫なフィルムラベルも主力商品の一つです。平成二十八年には、大手粘着テープメーカーのニチバン株式会社と資本業務提携をしました。今回は、取締役会長 神山公一さん、代表取締役社長 遠藤和彦さんに、創業以来大切にしている「化工」技術への想いについて、お話を伺いました。



大東化工株式会社 取締役会長 神山公一さん(右) 代表取締役社長 遠藤和彦さん(左)



大東化工株式会社  
 住 所 岐阜県岐阜市折立364-1  
 TEL 058-239-1333  
 FAX 058-234-0056

### 技術の原点は美濃和紙化工

ユネスコ世界無形文化遺産に登録された「本美濃紙」に代表される美濃和紙は、薄くムラがないため柔らかく、繊細な風合いを持ち、さらに強靱な耐久性も兼ね備えているのが魅力の一つです。大東化工株式会社は、創業者の神山直治さんが美濃和紙の原料商として昭和十二年に開業しました。その後、美濃和紙の化工を開始。電照菊の花弁を包む京花紙や、コーヒーフイルター、電気掃除機のパックなど様々な製品を手がけていきました。発展の礎となったのは、当時全国で盛んに使われた「謄写版」の版となる原紙の製造です。ガリ版で使用される鉄筆用ロウ原紙やタイプライター用原紙などの謄写版の最盛期は昭和三十年から五十年初めでした。その頃、三代目社長に就任した現在会長の神山公一

さんは、当時をこう振り返ります。「国内の謄写版市場においては競合が多かったため、販路を海外に求めました。製品を輸出した国は百カ国に及び、マレーシアやインドネシアなどに現地工場も建設しました。東南アジアでは、それまでアメリカ製やドイツ製などの輪転謄写機や孔版原紙が多く使われていましたが、当社製品は欧米製より安く性能も良いと大変よく売れました。何より私には『世界に誇れる美濃和紙が、品質で負けるわけがない』という想いがありました」

欧米などの主力メーカーが市場から撤退していく中で、公一さんは最後の一家となるまで製造供給を続けました。

「インフラが整っていない発展途上の国では電氣を使用せずに大量印刷が出来る謄写印刷は大変重要でした。私たちにはそういった国を支えてきたという自負もあります。大東化工は、美濃和紙から生まれ、謄写技術の進化とともに歩んできた岐阜県の地場産業です。時代の変遷と技術の進歩と共に当社の主力製品は姿を変えてきましたが、いつの時代も礎は『美濃和紙の化工で培った技術』です。これを応用して様々な特殊紙・機能性フィルムを製造しています。美濃和紙は、今も提灯や和傘など伝統工芸品として大切に育まれてい



ダイトー謄写技術資料館

\*謄写版  
 明治時代に生まれ昭和時代まで活躍した簡易印刷機、代表的なものに「ガリ版」があります。

ます。私たちも私たちの技術で、美濃和紙の形を変えて次世代へ残していきます。これは地場産業に関わってきた者としての使命です」

この想いを形にすべく、公一さんは平成十二年に本社二階に「謄写技術資料館」を開設。歴代の謄写版やタイプライターなど、関わってきた情報機器や道具、印刷物を展示しました。令和三年には、「ダイトー謄写技術資料館」としてリニューアルオープン。「ガリ版印刷」が体験できるワークショップもおこなっています。

### 新たな叡智とともに

謄写版原紙の製造技術は、その後、特殊紙・機能性フィルムの化工技術へと進化を遂げていき、そのなかで公一さんは自社に大きな変革が必要な時期がきていることを強く感じていました。「これまで培ってきた技術を十分に活かし、自社を存続させていくためには、大手企業を持つ力が必要だと決断しました」

令和四年、資本業務提携先のニチバン出身者の遠藤和彦さんが社長に就任しました。遠藤さんは、大東化工についてこう語ります。「会長をはじめ、社員全体が変化を恐れず挑戦するチャレンジ魂が根付いている会社です。また、さまざまなコーティング技術やその液

を作る技術など、他にない特徴的な技術を持った大変魅力的な会社です。その独自の技術を活かして新たな可能性を広げていく事が私の役割であると思っています」

大東化工のフィルムコーティング技術は、ニチバンの産業用粘着テープやヘルスケア製品などにも活かされています。遠藤さんは今、大東化工の独自の技術である厚塗りコーティングにも着目しています。「コーティングについては薄さと速さが求められる現代において、敢えて厚く塗る技術であり、わが社の強みは和紙化工で培ってきた技術、さまざまな紙やフィルムにしっかりとムラなくきれいに厚く塗ることができるところです」

また、大東化工のもつ技術力の活路とその先を見つめるなかで、ホームページの技術情報を整備し、気軽にお問合せ出来るような体制を整えました。「様々な分野のお客様に大東化工の技術を知ってもらい、興味を持ってもらいたい、と願っています。企業で開発、研究を任されている技術者がホームページを見て直接連絡して下さることが多く、技術や課題点に対してピンポイントで問合せ出来るため、好評を得ています。実際に試作品やテストを希望されることもあります。こ

ちらも、そのお問合せや依頼に対して何か共同開発出来ないか、扉を広げて可能性を模索しています。様々な分野の方と技術交流していくことで共に技術を磨きながら新たな製品を作っていけるのではないのでしょうか」

今後は更に新たなチャレンジを重ねていきたいと語ります。「自動車産業、ライフケミカル、エネルギー産業、などの分野にも大東化工のコーティング技術を活かし、新しい価値を生み出していきたいです。多種多様な業界の方々と関わっていくことで、世の中に役立てる事業にしていきたいです」

「三代目として経営に携わった日から、大小あれどいくつもの決断を重ねてきました。これまで多くの人と出会い、その出会いによって左右を決断してきたことも多々ありました。その大きな決断の一つにより、遠藤社長との出会いも生まれました」

万感の思いで振り返る公一さん。二人で踏み出した新たな一歩は、創業百年に向けて更なる躍進のため、人と出会い、進化を続けます。